

令和4年度地域部活動推進事業

I 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究	黒部市教育委員会
---------------------------	----------

●現状・課題

- ・生徒は任意参加。241名参加(承諾書を提出)
- ・競技協会から派遣された指導者27名
- ・教員、エキスパートや部活動指導員が指導者を兼務可。
- ・市内中学校体育館、市内外体育施設で活動。
- ・指導者報酬 1h1,600円×1日3h×1年52回(週)×2名
- ・生徒・指導者ともにスポーツ安全保険に加入。
- ・参加費として報償費に係る費用の一部、個人保険料を保護者から徴収。
- ・部活動にある競技のすべての競技協会へ協力を令和5年度以降の協力を依頼。

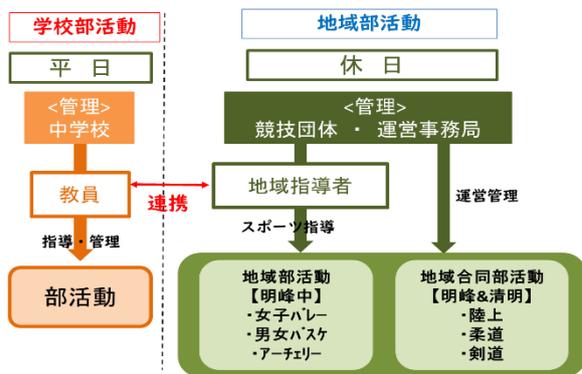
●実践研究校・競技

拠点校 明峰中学校 連携校 清明中学校
 拠点校単独 女子バレーボール、男女バスケットボール、アーチェリー
 2校合同 陸上、柔道、剣道

●実践内容

- 特徴 ①団体種目は、学校単独、個人種目は2校合同での活動を展開。
 ②地域の競技協会から派遣された指導者によるスポーツ指導。

- ・生徒は任意参加。(承諾書を提出)
- ・市でガイドライン等を作成して実施。
- ・教員、エキスパートや部活動指導員が指導者を兼務可。
- ・市内中学校体育館、市内外体育施設で活動。
- ・指導者報酬あり。
1h1,600円×1日3h×1年52回(週)×2名を上限
- ・生徒・指導者ともにスポーツ安全保険に加入。



		指導者	生徒	3年	2年	1年	備考
拠点校 単独部活動	女子バレーボール	4	25	5	11	9	
	男子バスケットボール	3	16	4	6	6	※1名教員
	女子バスケットボール	2	23	10	3	10	※1名教員
	アーチェリー	3	41	14	16	11	※1名教員
拠点校 & 連携校 合同部活動	陸上	7	78	19	34	25	清明3年:9 2年:12 1年:14
	柔道	4	20	5	7	8	※1名教員 清明3年:3 2年:4 1年:3
	剣道	4	38	16	12	10	清明3年:9 2年:8 1年:5
合計		27	241	73	89	79	

【令和4年度新規】

- ・参加費として報償費に係る費用の一部、個人保険料を保護者から徴収。
(1, 2年生 6,300円、3年生 2,300円)
- ・部活動にある競技のすべての競技協会へ協力を令和5年度以降の協力を依頼。

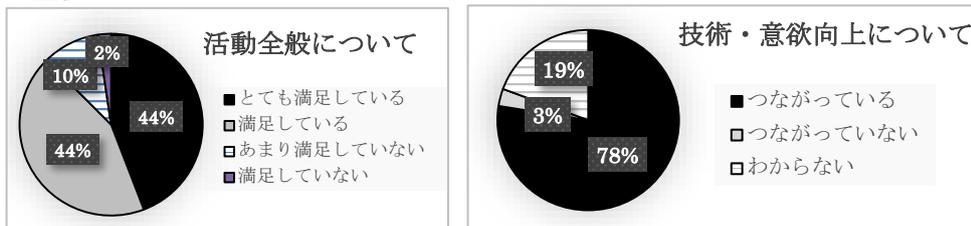
●参加者の声・成果

《全体について》

- ・令和3年9月から1年間以上を通して、7つの活動で地域部活動を実施した。
- ・昨年度に引き続き、あり方検討会を3回開催し、今後の方針等について検討を進めた。
(今後最後1回予定)
- ・中体連の競技主任教員と意見交換を行った。
- ・競技ごとに、協会と顧問と市で令和5年度以降の体制について協議を実施した。(計6回)
- ・来年度から対象競技を拡大して休日の地域部活動を実施する計画である。
- ・生徒、保護者向けに事前周知を実施した。(新生徒には中学校入学説明会で実施※2回)
- ・アンケートについては、昨年度同様概ね満足または理解していただけている結果であるが、実施していくにつれて課題が露呈している。

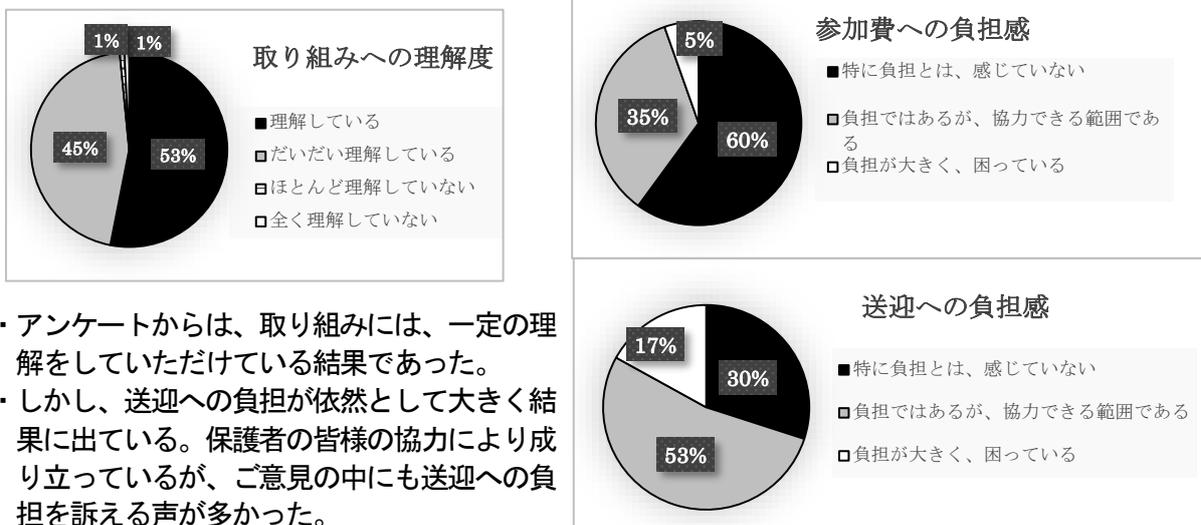
《活動について ※今年度のアンケートから(令和5年1月実施)》

○生徒



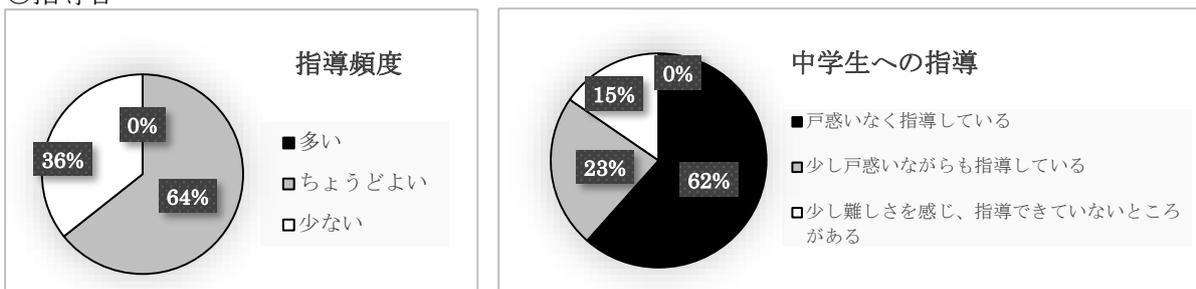
- ・全体的には、満足している回答が多かった。
- ・意見には、「ずっと続けてほしい」、「細かく教えてもらえて上達を感じた」、「もっと力をつけたい」、「平日も指導に来てほしい」という意見があった。一方で、学校部活動にはなかった移動の悩み、施設環境の改善を望む声もあった。

○保護者



- ・アンケートからは、取り組みには、一定の理解をしていただけている結果であった。
- ・しかし、送迎への負担が依然として大きく結果に出ている。保護者の皆様の協力により成り立っているが、ご意見の中にも送迎への負担を訴える声が多かった。
- ・その他には、指導者の質を問う声や連絡方法に苦難を感じる声があった。

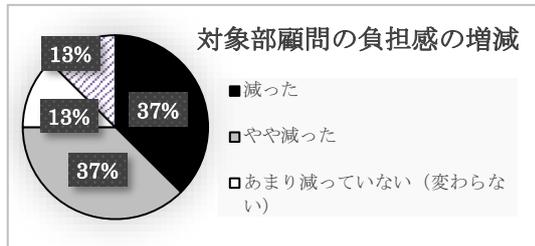
○指導者



- ・協会(地域)と中学生でコミュニケーションがとれ、地域の一体感を感じる。将来的に競技を続けていこうという生徒に対しても支援できる。両校の生徒に同じレベルで指導ができるなど、メリットが聞かれた。

- ・指導者からは、指導していくには休日だけだと難しいところがある。勝ちたいと思っているアクティブな生徒に対応できる仕組みがあるとよいという意見があった。
- ・また、中学生への指導について聞いたところ、半数以上は、「戸惑いなく指導している」という回答であったが、一部では、戸惑いを感じながら指導されていることがわかった。多感な時期である中学生を指導していく上での留意点が学べる講習や研修の場が必要である。

○顧問



・現在実施している対象部活動の顧問の負担は、約4分の3の方が「減った」「やや減った」との回答。「技術指導負担が軽減した」「休日の勤務時間が減った」という声からも負担軽減に少しは成果があったと思われる。

・しかし、指導者との連絡調整の不都合や、地域部活動への保護者意見で立場上間に入る対応があったとの声もあった。

・まだ学校からの完全な切り離しではないので、少なからず学校側にも負担がある状況である。

<顧問の休日時間外勤務>

○顧問17名を対象に地域部活動実施前のR2年度と比較して調査

R2年度 2793.75h → R3.1月~R4.12月 1334.5h 52.2%減 (1人当たり85.8h減)

○同顧問11月~3月(大会等が比較的少ない期間)の比較

R2年度 1057h → R3及びR4 165.5h 84.3%減 (1人当たり52.4h減)

・時間数は減っているが、大会参加に係る引率業務が残存しているため、このような結果になることが考えられる。中体連大会について、クラブチームの参加を認めることも大切だが、必ず教員が引率しなければならないところを、是正する仕組みも重要ではないかと考える。

●課題とその解決に向けた案

生徒の移手段の確保

アンケート結果から、保護者の協力はあるものの、生徒の移動に関する負担が大きいことがわかる。また、平日の地域移行を推進していくためにも、学校間の移動や社会体育施設へ移動できる体制づくりが必要である。

他課(スクールバス、公共バス等の活用)との協議を進める。

指導者の確保、さらなる質の向上

清明、明峰、中学校に関わらず指導を受ける機会を提供するための指導体制の確保が必要。また、指導者が指導資格や研修等を積極的に受けられるよう市や協会が同じ方向を向いて支援していくことが重要。

・指導者の募集(面談あり、協会連携) ・指導者資格取得の普及 ・研修、講習の機会充実

参加者の費用負担の軽減

費用負担によって、スポーツ活動をあきらめることのないような制度設計、引き続きの財源確保に向けて取り組んでいく。

・就学支援世帯への財政支援 ・県応援登録事業制度の活用

学校体育施設の利用調整

学校体育施設は今後も活動の場として有効的に利用していく必要がある。現在はまだ学校部活動も混在している状況であること、また今後のことを考慮しても利用調整のための機会を設けていく必要がある。

・できるだけ地域部活動でも、学校施設の利用調整を行う。

大会参加への対応

令和5年度は、現状のまま中学校部活動として参加していく方向性だが、競技によって異なる要件等をよく見ながら、生徒にとって望ましい参加の仕方を競技ごとに検討していく必要がある。

・令和5年度は、中学校単位での参加。令和6年度の登録に向けて協議を進める。

多様なニーズに応える活動の充実

競技志向、楽しみたい、色んな運動がしたいなど多様なニーズがある中で、競技性を求めない軽運動部を学校や地域に設置していくことも検討の余地がある。

・スポーツを楽しみながらも上達できる指導充実 ・軽運動部の設置に向けた協議

●今後の課題と対応

【生徒の移動手段の確保】

《課題》

- ・アンケート結果などから、保護者の協力はあるものの、生徒の移動に関する負担が大きい。持続可能な体制づくりには、移動手段に関する対策が必要。

《今後の方策》

- ・スクールバスや公共交通の活用について調査、協議

【指導者の確保、質の向上】

《課題》

- ・2中学校間で地域移行の状況に差があることあることから、全ての生徒が等しく地域の指導者から指導を受ける機会を確保する。

指導者の資質向上のための支援体制の構築が必要。

《今後の方策》

- ・指導者確保のため、事務局にて指導者公募を検討。研修、講習受講の機会確保。
- ・指導者資格取得に対する補助事業新設（R5年度予算計上）

【参加者負担の軽減（困窮世帯への支援）】

《課題》

- ・費用負担を理由とし、生徒がスポーツ活動をあきらめることのないよう、支援体制が必要。

《今後の方策》

- ・就学支援世帯への負担軽減制度の新設（R5年度予算計上）

【大会参加への対応】

《課題》

- ・クラブチームでの参加が可能になることを見据え、各競技において、生徒にとって望ましい形での大会参加の方法の検討が必要。

《今後の方策》

- ・各競技における参加要件の調査・検討、協会・中体連との協議 等